

N P O 法人共働のまち大野城

令和 3 年度事業報告

令和 4 年 5 月

目次

まちづくりに関するボランティアを活用した事業

1. 使ってバンク「暮らしのサポート事業」・・・2
2. 市民公益活動促進プラットホーム・・・5

まちづくりに関する担い手発掘及び養成並びに支援事業

3. サロン事業・・・9
4. 天体事業・・・11

まちづくりを行う団体等への助成事業

5. コミュニティ活動応援ファンド事業・・・14

まちづくりを推進するための事業

6. まちづくり推進事業・・・17

まちづくりに関する情報提供及び相談等支援に関する事業

7. 相談・養成支援事業・・・19
8. 情報発信・提供事業・・・21

まちづくりに関する調査及び研究事業

9. 買い物代行「ごきげんお届け便」・・・24

コミュニティセンターの管理運営及び施設の貸出事業

10. コミュニティセンターの管理運営及び施設貸出事業・・・26

その他目的を達成するために必要な事業

11. 自主事業・・・30
12. 人材育成・・・32
13. 自主財源の確保・・・34

1. 使ってバンク「暮らしのサポート事業」

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 新たな方法での事業周知活動を行うとともに、市内で開催されるイベントには積極的に参加し事業の周知啓発を行う。
- 幅広い世代に向け事業の周知啓発を行い、おタスケさん登録説明会を実施するなど、新たな担い手を発掘する。
- おタスケさんの相互交流を深めるための交流会を実施し、地域活動に対する意欲の向上を図る。
- おタスケさん交流会の開催方法を新たに検討する。
- 他の関係機関との連携を強化し、相談支援技術の向上や介護保険制度などの関わりある制度の理解を深め、職員のスキルアップを目指す。

事業報告

- Report -

今年度の相談件数は **1,920** 件。

おタスケさんは新たに **23** 名増え、**219** 名になった。

おタスケさん登録者数 () は令和2年度

総数 **219** 名 (208 名) ※解約 12 名

各地区
おタスケさん
登録者数内訳

南地区
75 名
(70 名)

中央地区
48 名
(40 名)

東地区
45 名
(51 名)

北地区
51 名
(47 名)



ありがとう券お渡しの様子



家具の移動



洗濯物干し、取り込み

相談件数

1,920 件
(1,845 件)

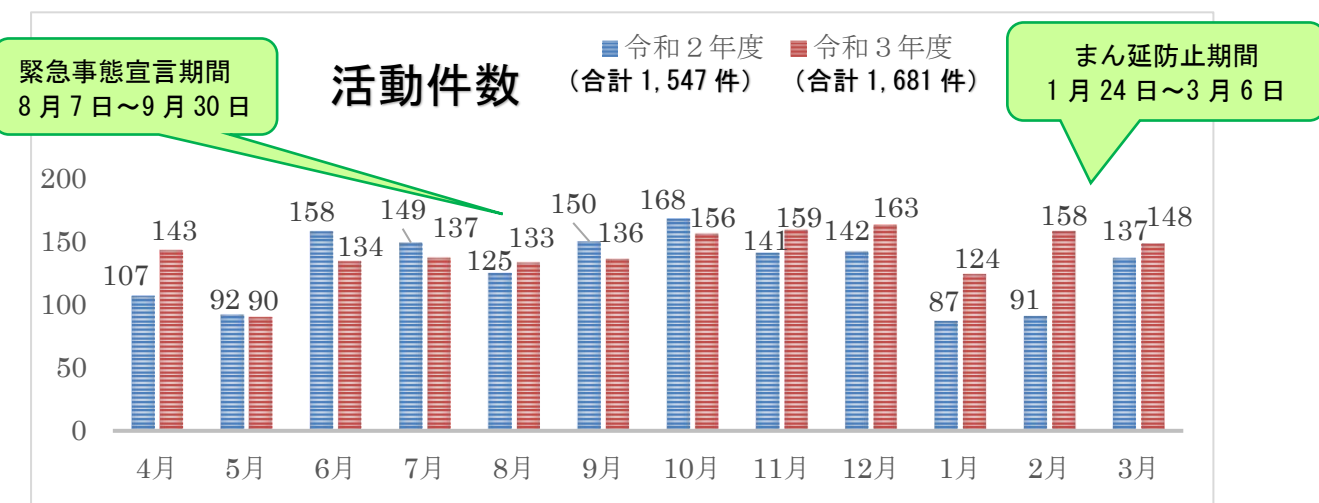
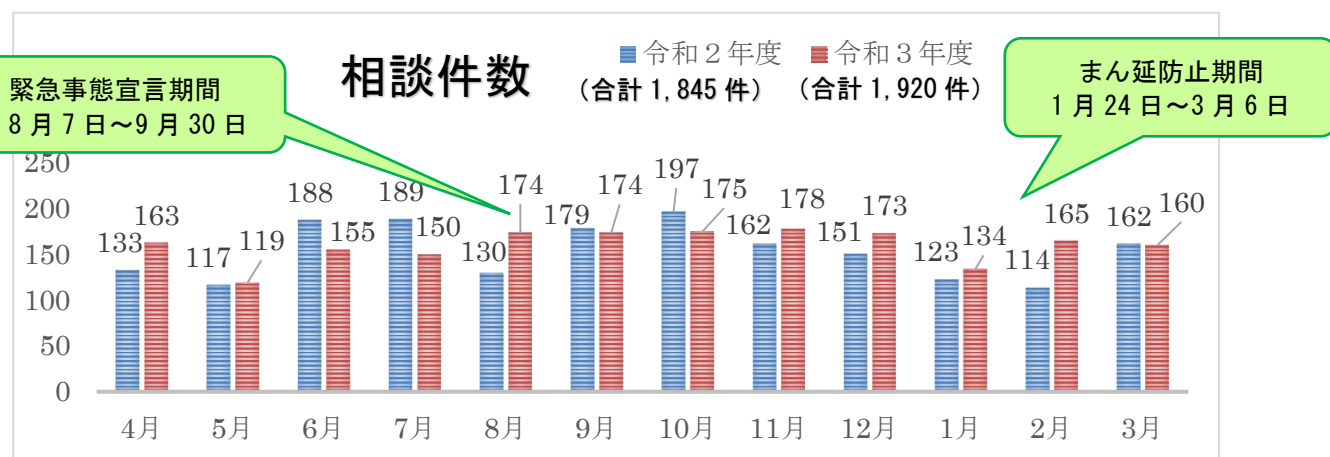
目標 2,000 件
達成率
96%

活動件数

1,681 件
(1,547 件)

目標 1,800 件
達成率
93%

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を自粛する期間があった。全体としては、昨年度同様に電球交換やゴミ出しのような生活に必要な活動や、緊急性を伴うような活動については、おタスケさんと相談しながら活動を行った。相談件数、活動件数はどちらも目標件数には達しなかったが、昨年度に比べると件数自体は共に増えている。コロナ禍の影響を受けた多様化した相談に対して、丁寧な対応を心掛けた。



周知啓発について

市内で開催（11月）された「ふくしフェスティバル」に参加し、PRグッズを活用しながら事業の紹介やおタスケさんの活動写真の展示など、事業の周知啓発を行った。また、公民館や民生児童委員会での説明会、公民館だより等の広報誌での周知に加え、新たにホームページやSNS等での周知を行った。

職員のスキルアップについて

近年の傾向として認知症に関する相談や高齢者からの相談が増加傾向にあるが、相談の際はケアマネージャーなどの関係者と連携し、丁寧な対応を心掛けている。認知症に関する知識を深め、相談者へのサポートがよりできるよう「認知症サポーター養成講座」の受講や、介護保険に関する知識を習得することで、高齢者からの相談に的確に対応できるよう「介護保険制度」の出前講座を受講により、職員のスキルアップを図った。

成 果

- Achievement -

「ふくしフェスティバル」のパネル展示期間中に「パネル展を見た」という方から相談があり、新規登録へとつながったケースもあった。周知活動により、23 名が新たにおタスケさんとなった。



課 題

- Task -

- ① 若い世代のおタスケさん登録者を増やす“効果的な周知方法”について検証していく必要がある。
- ② 相談件数に対して、活動可能なおタスケさんが不足傾向にあるため、更なる周知活動を行い、おタスケさん登録者数を増やす必要がある。
- ③ 本事業の趣旨である“お互いさまの輪”を広げるために、利用者及びおタスケさん募集の周知活動を積極的に行う必要がある。

2. 市民公益活動促進プラットフォーム

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 広報物やP R動画の活用など事業認知度を上げ、事業推進を図る。
- 積極的に説明会を実施し、まどぷら登録者数の増加を図る。
- まどぷら登録者が市民公益活動に参加できるような取り組みを検討する。
- 他団体との連携を図り、情報収集を行い、新規団体の登録につなげる。
- 団体の活動促進のため、総合ポータルサイトの機能を活用しながら団体へのサポートを行う。
- 職員が市民公益活動に参加し、まどぷらポイント付与のサポートなど団体支援を行う。
- 連絡会議を開催することにより、団体同士の連携と相乗効果を図る。

事業報告

- Report -

今年度のまどぷら登録者数は **3,857** 名。

ポイント付与数は **17,901**P で、多くの人が地域活動に参加した。

まどぷら登録者数

() は令和2年度

3,857 名
(3,036 名)

目標 4,000 名
達成率
93%

今年度も各地区や小・中学校などに出向き、事業説明会の実施や広報物・P R動画などを活用した事業促進に努め、事業認知度向上及びまどぷら登録者数の増加を図った。今年度新たな取り組みとして、小・中学生に地域活動へ参加機会を提供するため、法人の自主事業として「わくわくゴミ拾い」事業を実施した。

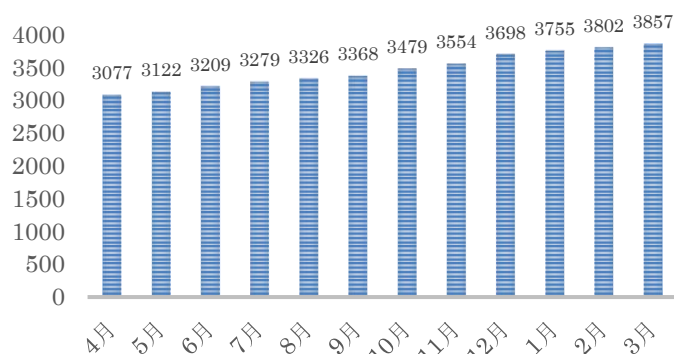


『わくわくゴミ拾い』の様子

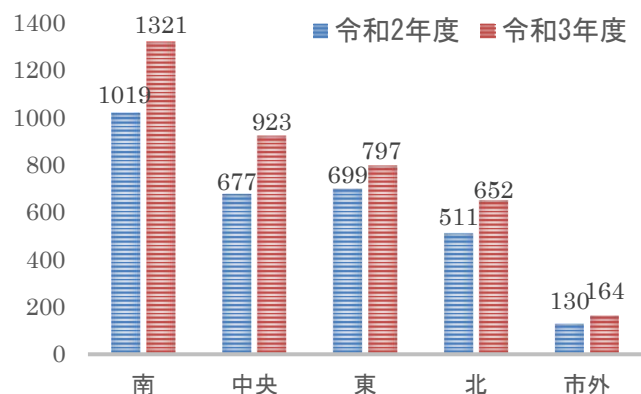


小・中学校の授業にて事業説明の様子

令和3年度 個人登録者総数



地区別登録者総数



活動登録及びポイント付与について

活動件数

4,287 件
(3,835 件)

目標 5,000 件
達成率
85%

今年度は、既存団体に対して活動登録参照表（ポイント付与の活動目安表）を配付するなどサポートを行ったことや、コロナ禍においても十分な対策を行ったうえで活動する団体や参加者が多かったことにより、前年度に比べ活動登録数及びポイント付与数は増加した結果となった。

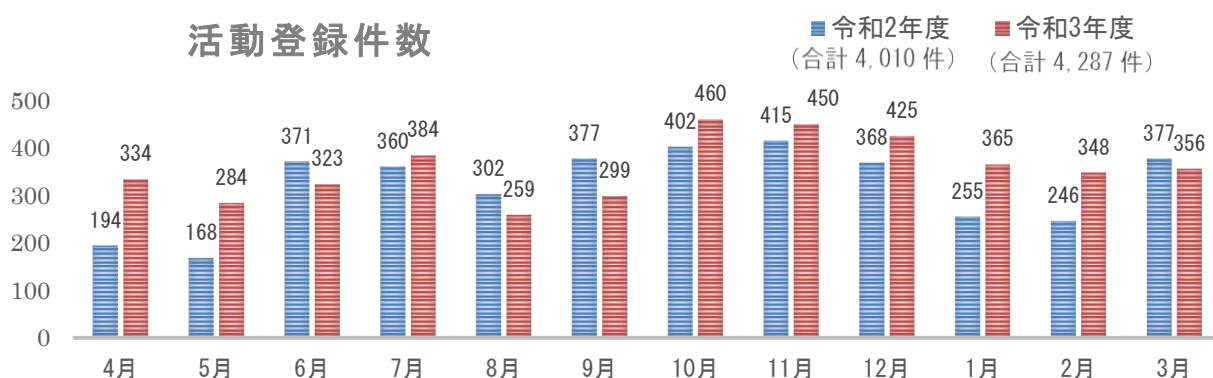
ポイント付与数

17,901 P
(15,219P)

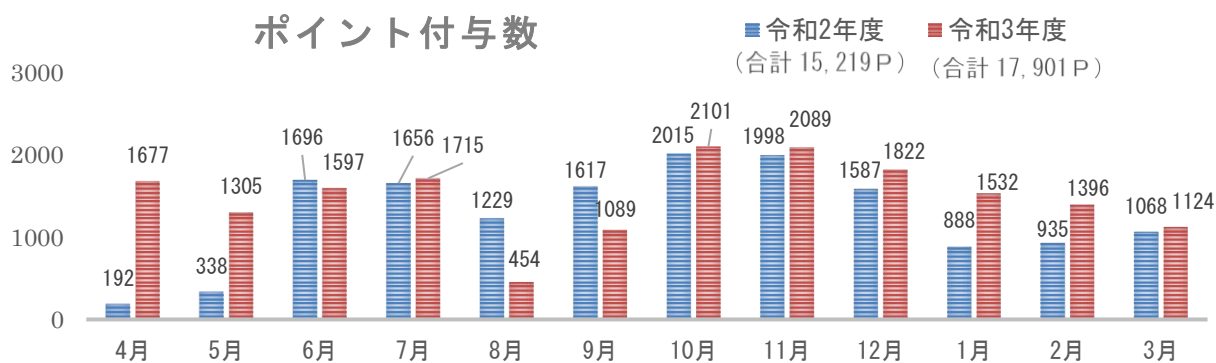
目標 16,700P
達成率
107%

※令和4年3月31日時点

活動登録件数



ポイント付与数



連絡会議について

登録団体数

73

団体

(69 団体)

目標 81 団体
達成率
91%

令和3年度の連絡会議については、前年度と同様コロナ禍により対面交流を中止し、書面にて運営状況を報告する形式へと変更した。また、新たな試みとして動画配信も実施したが、団体からの反響もあり、今後コロナ禍において連絡会議の運営方法を新たなかたちで行うなど次年度以降の連絡会議を検討していく。

今年度の連絡会議のイベントとして、大野城市版の“プラットフォームゲーム”を法人職員で作成し、団体同士の交流と活性化を図る予定としていた。今回の対面交流中止の判断により実施できなかったが、次年度以降に活用を図る予定としている。



連絡会議で団体同士が
交流を図れるような内容を考案



YouTube にて動画配信

成果

- Achievement-

- ① 今年度の取り組みとして、市内の小中学校に出向き、授業の中で当事業の説明及び“まどぶら”の登録周知を行った。また、自主事業である『わくわくゴミ拾い事業』と連携したことにより、小中学生 50 名以上の新規登録につながった。
- ② ポイント交換品を各コミュニティセンターにて館内掲示したことにより、交換件数が増加したとともに、新規登録者の増加にもつながった。



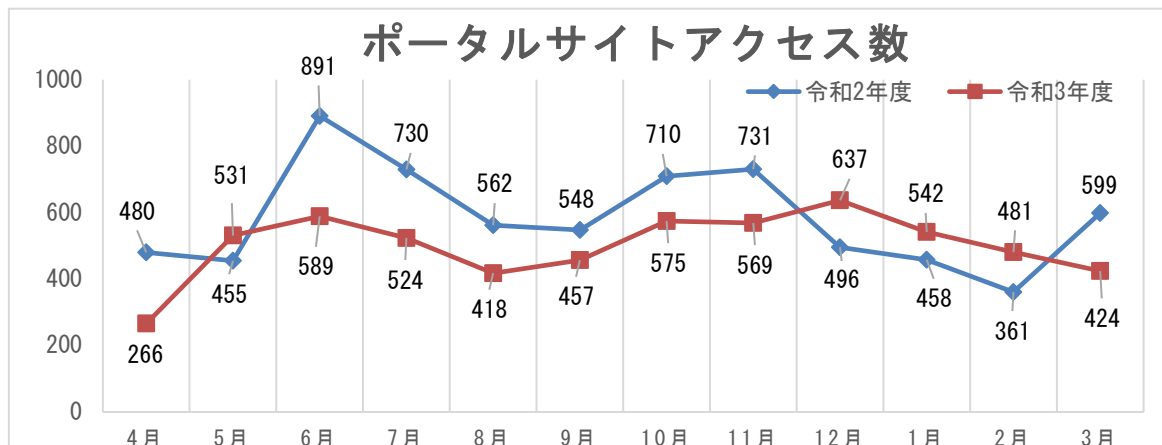
まどぶらポイント交換品
館内にて掲示

課題

- Task -

① ポータルサイトについて

毎月 500 件程のアクセス数があるものの、当事業においてポータルサイトが活用されていないことが課題の一つである。今後は、団体の活動活性化及び市民活動への参加促進に向けてポータルサイトを活用するために、登録者に向けての周知方法を検証していく必要がある。



② 登録団体について

今年度は登録団体でもある社会福祉協議会と連携して、社会福祉協議会に登録している団体に向けて団体登録のアプローチを行ったが、目標数を達成することができなかった。来年度も引き続き、他団体と連携してアプローチをするとともに、指定管理の他事業（サロン事業など）と連携して、団体登録に向けて周知強化をする必要がある。

3. サロン事業

令和3年度
事業計画

- Plan -

- 共通のサロンカレンダーを活用し、だれでも参加しやすい場を提供する。
- コミュニティ通信やSNSを活用した周知活動を行うことで、新たなボランティアを発掘する。
- プラットホーム事業と連携し、サロンボランティアにつながるようサポートを行う。

事業報告

- Report -

今年度のサロン件数は **24** 件。

サロンが6件増えたことでボランティアが新たに **13** 名増えた。

() は令和2年度



ダーツサロン（中コミ）



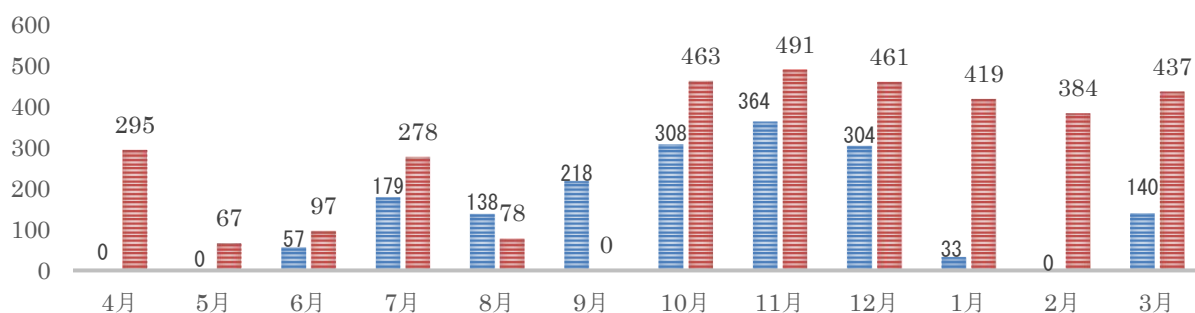
シニアの広場（南コミ）

今年度もコミュニティセンターの臨時休館や施設利用の制限などがあり、十分にサロン事業を実施できず、当初の目標である参加者数を達成できなかった。ただし、今年度に作成した“4 コミ共通のサロンカレンダー”を活用し、地域を限定せずにサロン事業への参加を促したことで、広域的な市民の交流の場を作ることができた。

また、ワクチン接種会場における事業のポスター掲示やSNSツール等を活用し、幅広い年代に対して事業の周知活動を行った。

参加者数

■ 令和2年度 ■ 令和3年度
(合計 1,741 人) (合計 3,470 人)



成 果

- Achievement -

- ① 4 コミ共通のサロンカレンダーを活用したことで、地域が限定されていたサロン事業の幅が広がり、地域間の相互交流を図ることができた。
- ② 幅広い年代に対しての事業周知や他の指定管理事業との連携により、サロンボランティアが 13 名増加した。
- ③ にぎわいづくり協議会主催「まちなかわくわくパビリオン」のパンフレットにサロン情報を掲載したことにより、サロン参加者の増加へつながった。

課 題

- Task -

- ① コロナ禍により、公的施設においては飲食や発声が制限される傾向にあり、活動を自粛せざるを得ないサロンもあるため、実施方法について検討していく必要がある。
- ② 職員がサロンの自立及びボランティア育成を意識した上で、更新のタイミングでサロン団体に向けて活動の場を広げるよう促していく必要がある。

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 宙まどか通信やスタードームまどかパンフレット、SNSを活用しスタードームまどかの来場者増を目指す。
- 天文科学講座（工作）や太陽観測会を各コミュニティセンターで開催することで幅広く市内外へ周知する。
- 市内で行われるイベント（大文字まつり等）に参加し、多くの市民へ周知することで、天体事業参加者増を図る。
- 学校やランドセルクラブと連携を図り、青少年育成に努める。
- ボランティアとの関係構築を深め、意識の向上を図り、ボランティアが主体的に天体観測事業を行えるように育成する。
- 各区・団体とのタイアップ企画を行い、出張観望会や天体事業促進を図る。
- 曇天時の室内イベントなど、天候に左右されない企画イベントを立案する。

事業報告

- Report -

今年度は地域や行政とのコラボ企画も行い、**56** 回事業を実施した。

学校とも連携し、事業を通じて青少年育成に努めた。

参加者数

1,697 人
(2,455 人)

目標 5,000 人
達成率
33%

実施回数

56 回
(66 回)

目標 71 回
達成率
78%

ボランティア数

48 名
(46 名)

目標 50 名
達成率
96%

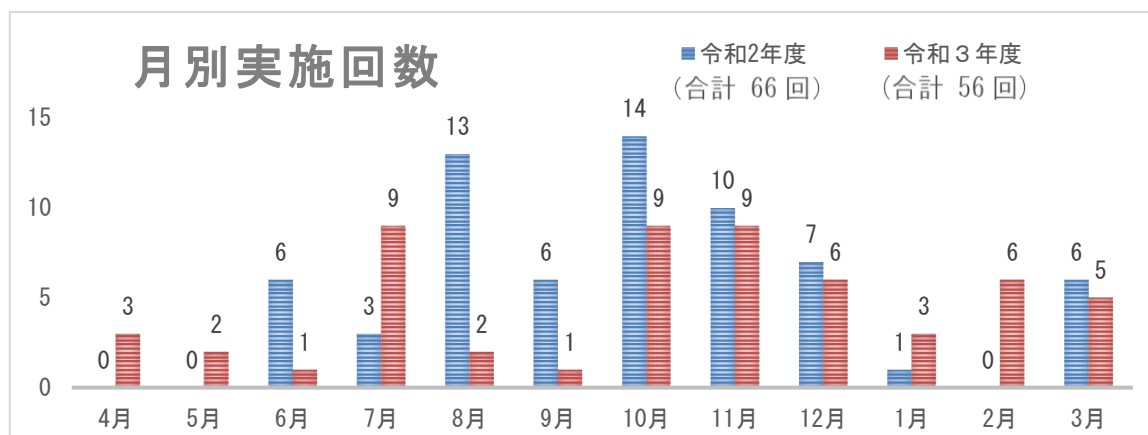
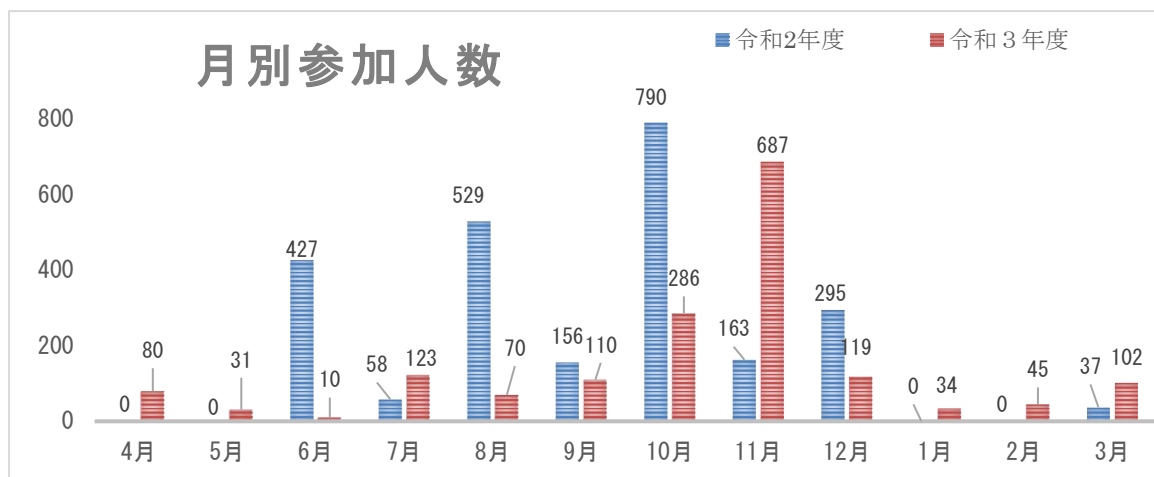
前年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の中止（大文字まつり、産業展）や延期を余儀なくされる状況もあり、全体的な事業実施数や参加者数は前年度よりも減少したが、今年度はSNS等を活用した事業周知やイベント開催等を行い、スタードームまどかやイベントの参加人数増加を図った。また、各区や地域団体と連携した企画を行い、事業を実施することができた。



山田区のイベントにて



わくわくウォーク大野城！
太陽観測会



学校との連携について

学校との連携事業については、9月に大野北小学校での太陽観測事業、11月に大城小学校での天体観測事業を実施し、計250名の参加があった。また、8月～11月、には、下大利・御笠の森・大野南小学校において市の事業である“放課後こども事業ランドセルクラブ”において出前講座を実施し、140名の参加者があった。



成 果

- Achievement -

- ① 大野城市のイベント「わくわくウォーク大野城！」と連携したことで“スタードームまどか”の周知へとつながり、イベントへの来場者が増加した。
- ② 各コミュニティセンターでの事業実施時に“スタードームまどか”のPRを実施したことで認知度向上につながり、来場者の増加へとつながった。
- ③ 季節イベント「皆既っぽい部分月食」を開催した際、近隣の中学校と連携したことで、中学生の参加者が増加した。



課 題

- Task -

- ① 曇天時や冬場の市民星空観望会は天候に左右されるため、天候による中止を踏まえ、企画やイベント方法について検討する必要がある。
- ② ボランティア主体によるイベント企画などの側面的支援と、その支援に伴う職員のスキルアップが必要である。
- ③ 今後もコロナ禍によるイベントなどの制限が継続していくことが予想されるため、制限された中でも開催できるようなイベントの企画を検討し、青少年の育成へとつなげていく必要がある。

5. コミュニティ活動応援ファンド事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 市内で行われるイベントに参加するとともに、SNSの活用など事業認知度を上げ事業推進を図る。
- 地域で活動している団体とつながり、新たな申請団体発掘に努める。
- 『ファンド事業実施報告会』において、講座を企画するなど一般参加者の拡大を図り、市民のコミュニティ活動への参画、新たな団体の相談及び獲得につなげる。
- 助成終了後の団体が継続的に活動できるよう支援する。

事業報告

- Report -

今年度の申請団体は **3** 団体。

今年度は審査会の開催方法の見直しほか、地域団体のサポートに努めた。

令和3年度ファンド事業審査会について

申請件数

() は令和2年度

3 件
(5件)

目標5件
達成率
62%

今年度は審査員や採択団体からの意見をもとに、審査会の開催方法について見直しを行った。

【令和3年度のファンド申請募集期間】

第1期	令和3年2月1日～2月28日
第2期	令和3年6月1日～6月30日



宇宙の学校®

採択団体であるスペースドリーム大野城と共働で、同団体が心のふるさと館で行うイベント『宇宙の学校®』を東コミュニティセンターで同時にリモート開催を実施した。事業推進を図り関係性の向上に努めた。また、助成終了後の団体や、本事業の対象とならない地域活動団体等に対し、相談内容に合わせてファンド事業以外の助成金を紹介するなど、団体のサポートを行った。

令和3年度ファンド事業団体

栄町 人とねこの幸せの会



北地区で地域猫に関する課題に取り組んでいます！

ON0JO にゃっとわーく



動物虐待、殺処分ゼロを目指して！地域で保護猫活動に取り組んでいます。

スペースドリーム大野城



子どもたちは地域の宝。夢を持つことの大切さ、素晴らしさを知ってもらう機会をつくり、青少年育成に努めています。

ファンド事業実施報告会について

予定していた“ファンド事業実施報告会”については、SDGsのワークショップを同時開催として企画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、対面での報告会は実施せず、関係各所へは書面による報告を実施した。またホームページにも報告内容を掲載し、市内外へ広く情報を発信した。

成果

- Achievement -

- ① 地域団体主催のイベントに参加し地域団体と交流したことにより、新規の地域活動団体を紹介されるなど、団体発掘の成果へとつながった。
- ② YouTubeにて団体紹介およびファンド事業のPRを行い、市内外に広く周知することができた。
- ③ 審査会方式の見直しを行い、初年度の申請は書面審査としたことにより、地域団体からの相談が増え、令和4年度の申請へとつながっている。
- ④ 他市への視察研修を実施したことにより、助成金についての理解や団体のフォローなど職員のスキルが向上した。

新規相談団体数

5 団体
(5 団体)

目標5団体
達成率
100%

課題

- Task -

- ① 経験の浅い職員が多いため、更なるスキルアップを図る必要がある。
- ② 事業実施報告会については、コロナウイルス感染症の影響により、近年は書面報告となっているため、企画及び周知方法も含めた開催方法を検証する必要がある。
- ③ 団体の活動活性化につなげるため、今年度見直しを行った審査会について評価検証を行い、申請書類等も含めた審査方法について検討していく必要がある。

6. まちづくり推進事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 地域の特性となった歴史を学ぶことで地域の特色を理解し、多様な視点にたてる人材育成を図る。
- 地域にある社会資源発掘に努め、地域やボランティア団体の情報を発信し、地域とボランティアをつなげる。
- コミュニティ運営協議会や各区（公民館）と共働し、各コミュニティにおける地域課題の解決に向けて取り組んでいく。
- 地域の各種イベントに参加し、地域課題解決などの情報収集を行い、関係構築を図る。

事業報告

- Report -

積極的に地域に出向き、社会資源及び地域課題の情報収集を行った。

地域団体と連携した事業を展開し、地域課題解決及びまちづくり推進を図った。

積極的に地域のイベントへの参加や地域団体との交流を図ったことで地域の特色を理解し、地域にある社会資源発掘及び地域課題の情報収集を行い、法人のホームページなどで情報発信を行った。各コミュニティ運営協議会やにぎわいづくり協議会などの地域団体と情報共有及び関係構築に努め、またチャイルドケアセンターなどの地域団体とも連携し、地域課題の解決及びまちづくり推進を図った。



にぎわいづくり協議会との協議

成 果

- Achievement -

- ① チャイルドケアセンターと連携し、3月に北コミュニティセンターでフードドライブを実施した。集まった食品は福岡筑紫フードバンクに寄付し、市内で行われている子ども食堂にて活用された。



- ② 11月に実施された地域で活動している団体『MONOづくりLab』主催のイベントに法人として参加した。法人のPRとともに、他の団体とも交流を図り、関係構築を図った。



課題

- Task-

地域活性化や地域課題解決のために中間支援という立場で、地域とボランティアをつなげ、パートナーシップによるまちづくりを行う必要がある。

7. 相談・養成支援事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 外部講師を活用したボランティア養成及び育成の研修を受講し、職員の相談支援機能のスキルアップを図る。
- 関係機関と連携し、地域の方や地域団体に向けての相談会を開催する。
- パートナースhip活動支援センターが地域の相談窓口であることを広く周知する。
- 相談支援強化のためボランティアについての知識を深めるため、研修の参加や資格取得など職員のスキルアップに努める。

事業報告

- Report -

相談会実施回数

() は令和2年度

1 回
(0 回)

目標 1 回
達成率
100%

時期	場所	企画名
11 月	イオン大野城	出張相談会
3 月	北コミ	相談会 (…中止…)

11 月 22 日、23 日の 2 日間、イオン大野城にて、パートナーシップ活動支援センターが地域活動の相談窓口であることを広く周知するために、出張相談会を初めて企画し、実施した。「コミュニティセンターで相談できるとは知らなかった」や「相談できるところがあって安心します」など好意的な声が聞ける貴重な場となった。



成 果

- Achievement -

- ① 外部アドバイザーによる全職員への研修を重ねたことで、法人全体の組織力向上や相談支援機能のスキルアップを図ることができた。
- ② 2 日間にわたりイオン大野城店にて出張相談会を開催したことで、実際に地域相談を受けるだけでなく、パートナーシップ活動支援センターが地域の相談支援の窓口であることを周知することができた。また、開催中の相談支援件数は 10 件あり、その内ボランティア活動に興味を持たれた方が開催時間中にプラットホーム個人登録 (4 名) とおタスケさん登録 (2 名) へとつながった。

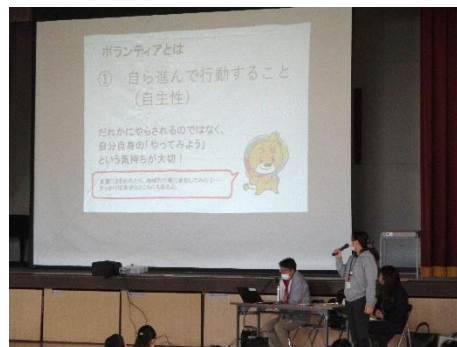
- ③ 年間を通して、パートナーシップ活動支援センターには45件の地域活動についての相談があり、地域団体の相談に対して解決につながる支援ができた。

相談件数

16 件
(10 件)

目標 10 件
達成率
160%

- ④ 職員が市内の小学校に講師として出張し、『地域について』や『地域のボランティアについて』を授業の一環として実施したことで、若い世代のボランティア養成を図ることができた。



課題

- Task -

- ① パートナーシップ活動支援センターの役割である「地域活動の相談窓口」の効果的な周知方法について検討していく必要がある。
- ② 潜在的に地域活動に興味を持っているより多くの団体や個人を支援するために、相談しやすい仕組みを構築する必要がある。

8. 情報発信・提供事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- NPO法人ホームページの活用（お知らせ・レポートの更新）により、当法人の活動内容や取組及び地域活動の情報発信を継続して行う。
- 行政や地域と連携し、地域広報誌（市報やコミュニティ通信、公民館だより等）チラシで市民ニーズに適した情報を提供する。
- SNSツールを拡充し幅広い世代へ周知を図っていく。
- すまっぽんを活用し、利用ニーズを高めるとともに、まちづくりにおける情報発信を積極的に行う。

事業報告

- Report -

今年度は法人の活動内容や取り組みのほか、各地区やイベントに出向き取材を行い、積極的に情報発信を行うとともに、ホームページやSNSツールをPRするチラシを作成し、館内掲示やイベント時の配布を行い、情報発信機能の周知を行った。

（ ）は令和2年度

ホームページ 更新回数

198 回
(115 回)

目標 240 回
達成率
83%

Facebook 更新回数

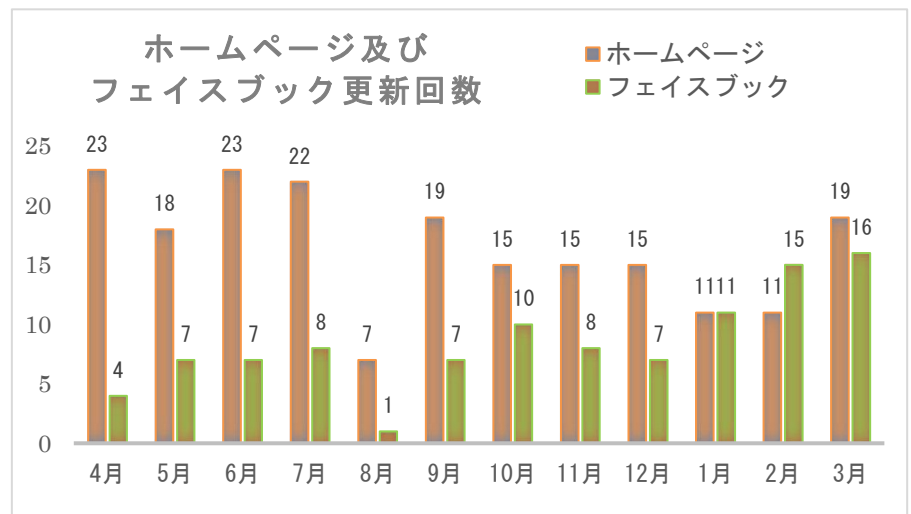
101 回
(108 回)

目標 100 回
達成率
101%

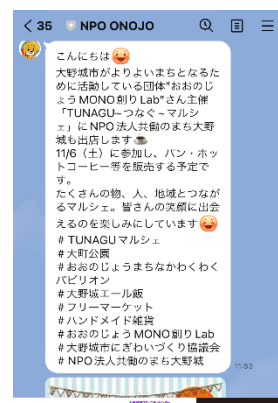
LINE 更新回数

42 回
(28 回)

目標 12 回
達成率
350%



チラシ



LINE



ホームページ

新たな情報媒体について

幅広い世代へ周知するために、新たな情報発信ツールとしてインターネット上で動画を共有する“YouTube”アカウントを作成した。YouTubeにおいては、撮影から編集まで職員が行い、活動内容や地域団体への取材したものなど今年度は8本の動画を配信した。

配信月	動画タイトル	視聴回数
6月	プラットホーム～個人登録編～	196回
7月	大野城市コミュニティ活動応援ファンドについて	176回
10月	初心者でも簡単！苔玉の作り方	89回
10月	大野ジョーダンスを踊ってみた☆	367回
10月	栄町 人とねこの幸せの会インタビュー	114回
11月	ONJOJにやっとわーくに話をきいてみよう	83回
12月	部分日食の観測会を行いました	82回
2月	ファンド事業申請スタートします！	59回

成 果

- Achievement -

- ① 積極的に情報発信を行い、また情報発信ツールのチラシを作成し、館内掲示やイベント時の配布などで周知したことにより、ホームページの閲覧数の増加につながった。

() は令和2年度

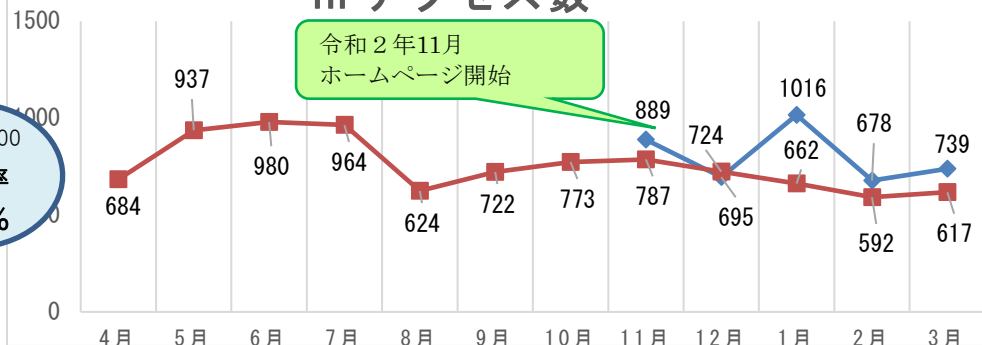
ホームページ
閲覧数

9,066 回

(4,017回)

目標 6,000
達成率
151%

HPアクセス数



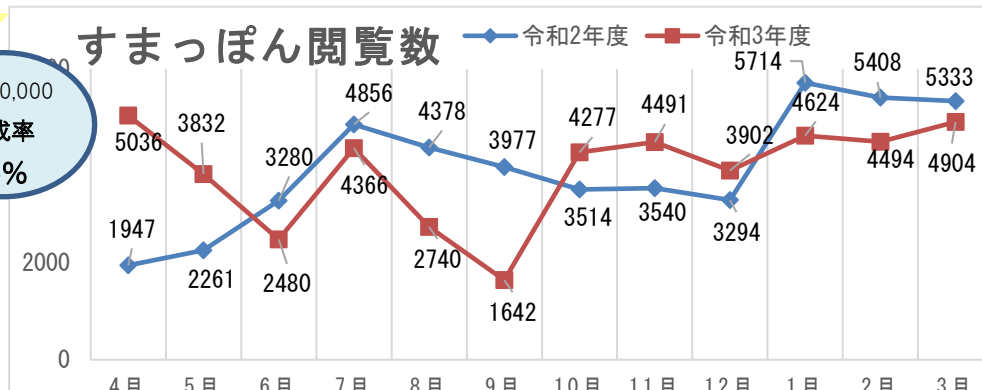
すまっぽん
閲覧数

46,788 回

(47,502回)

目標 50,000
達成率
94%

すまっぽん閲覧数



- ② 法人の情報媒体のみならず、11月から3月にかけて毎月、ケーブルステーションの番組内のコーナーで事業周知を行ったことで、番組を見て事業に参加した方もおり新たな参加促進につながった。



課題

- Task -

- ① さまざまな媒体を活用しながら情報発信を行っているが、未だ法人の認知度は高いとは言えない状況である。法人の認知度の向上を図るために、効果的な情報発信の方法を検討する必要がある。
- ② 地域から応援される法人になるために、より多くの人に法人の理念や活動内容を知ってもらうことが課題である。

9. 買い物代行「ごきげんお届け便」

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 大野城市、イオン九州株式会社（イオン大野城店）と連携を図りサービス向上を目指す。
- 広報物を活用し事業認知度を上げ、事業推進を図る。
- 説明会の実施など各区と連携した情報発信を行い、新規登録者を増やす。
- 使ってバンク「暮らしのサポート事業」やコミュニティ運営協議会の事業であるふれあい号やおげんき号と連携し、相互利用を促す。
- カタログ配布時に利用者へヒアリングを行い、サービスの向上を図る。
- 買物支援先のリストを活用し、買物支援事業の充実を図る。

事業報告

- Report -

昨年度と同様に外出が制限される現状を鑑み、様々な方法での周知啓発活動に注力したことで、新規利用登録者は**52**名となった。

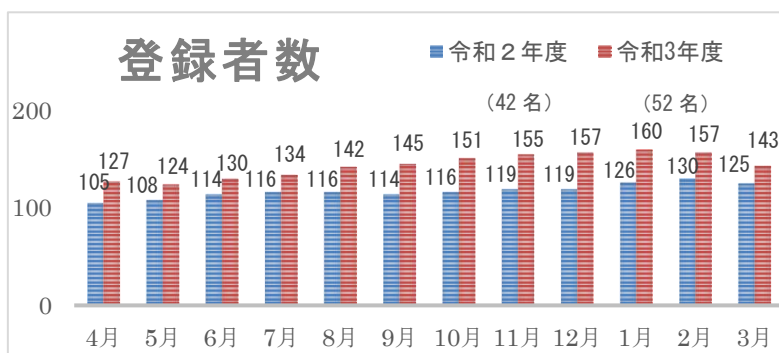
（ ）は令和2年度

新規利用登録者数

52 名
(42 名)

目標 50 名
達成率
104%

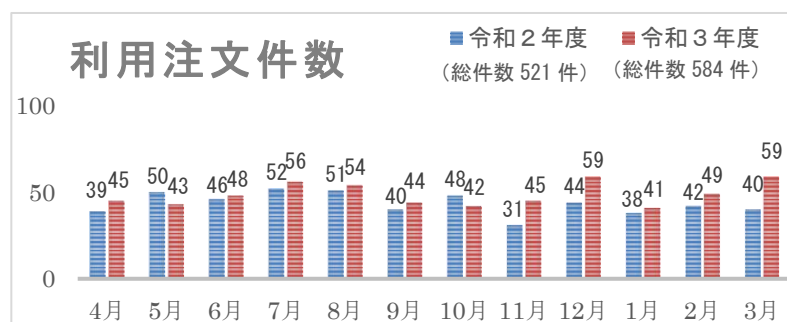
※解約者数 35 名



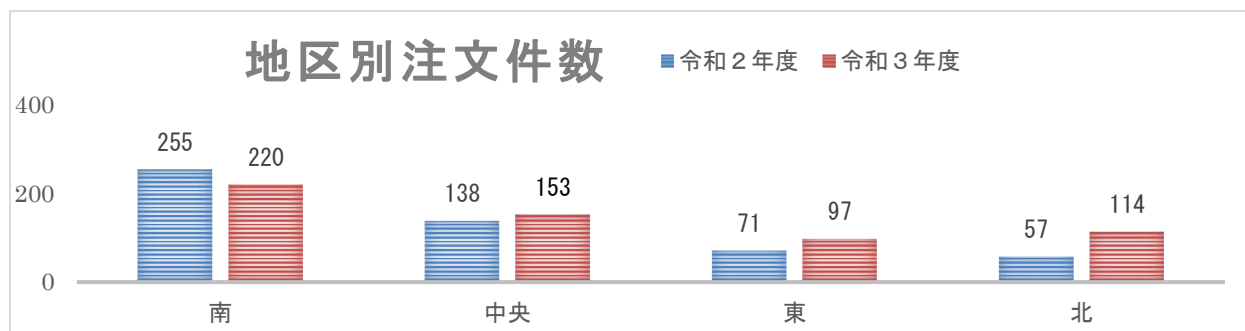
利用注文件数

584 件
(521 件)

目標 550 件
達成率
106%



南地区は丘陵地の住宅街が多く、中央地区は団地に住んでいる利用者が多いため買い物に困難なケースが多いことから、他地区に比べて注文件数が増えている。北地区については、関係機関との連携により事業が周知され、新規登録者数の増加へとつながったことで利用件数が増加している。



利用者アンケート実施

利用者の満足度向上を目的とした利用者アンケートを実施し、本事業の満足度やカタログ掲載商品に関する調査を行った。その結果をもとに、カタログのリニューアルを行った。またイオン大野城店及び市と連携しながら事業内容に関する協議を行った。

成 果

- Achievement -

- ① 他の指定管理事業と連携し、他事業の利用者に本事業を説明することで登録者の増加につながった。また、複数事業の相互利用を促すことで、利用者のニーズに合わせた買い物支援を行うことができた。
- ② 各地区や地域包括支援センターなど関係機関と連携し、組長会や民生委員会合などで本事業の説明を行ったことで、新規登録者や注文件数の増加につながった。
- ③ 既存の周知方法（市報やコミュニティ通信などへの掲載）のほか、法人のホームページやSNSを活用して情報発信したところ、新規登録へとつながった。
- ④ サービス向上を目指し、年末年始休暇前の注文受付を案内するなど、利用者に対するフォローアップを徹底したことにより、休眠状態の利用者からの注文があるなど、年末の注文数増につながった。

課 題

- Task -

- ① 本事業の注文件数が大幅に増加した場合、イオン大野城店の対応が難しいケースが発生した。今後、同様の状態が発生した際、緊急時における買い物支援について対応できる体制の整備を行う必要がある。
- ② 独自で作成している買い物支援リストの活用方法について、効果的な活用方法を検討しなければならない。

10. コミュニティセンターの管理運営及び施設貸出事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- コミュニティセンターの認知度を向上させるよう情報発信の方法を検証する。
- 事業部と連携し、コミュニティセンターの有効利用についての企画・運営を行う。
- 職員の意識・スキル向上のため、各種研修会を実施する。
- 利用者のニーズに合わせた環境整備について、関係機関と協議・検討していく。
- 「避難所運営マニュアル」を見直し、避難所運営時に効果的に活用できるよう整理していく。

事業報告

- Report -

利用者が館内を安心して利用していただけるよう、サービス向上に努め、

令和3年度の利用者は **408,008** 人となった。

利用者人数

() は令和2年度

408,008

(263,040 人)

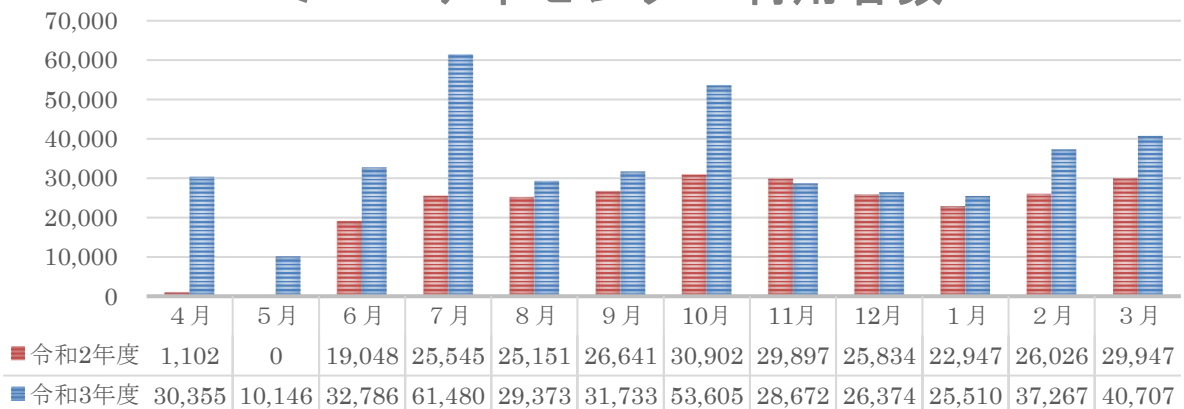
人

目標 300,000 人
達成率
136%

※当初は目標値を 500,000 人としていたが、コロナ禍による影響（臨時休館等による減少）を加味し、目標値を 300,000 人に変更した。

※利用者人数のうち、ワクチン接種に伴う利用者人数は 174,099 人。

コミュニティセンター利用者数



5/12～6/20 臨時休館

8/2～8/6 20時以降利用不可

8/7～9/30 臨時休館

館づくり

コロナ禍の中、前年度と同様に館内利用者の検温や施設の消毒等については引き続き徹底した対応を行った。来館者が季節を感じられるよう季節に合わせた施設内の飾り付けや展示物（ハロウィンやクリスマス）を設置し、施設のPRに努めた。



また、利用者からの施設利用に関する要望があった場合は、安全面に配慮したサービスの提供を行うよう努めるとともに、その中で、特に以前から要望が多かった Wi-Fi 環境について館内環境の改善を行い、研修室と視聴覚室でも Wi-Fi が使用できるよう整備した。そのようなことから、施設利用者に対して実施したアンケート調査では、施設の基本的なサービスに対しても満足度が高い結果となった。

情報発信

アプリ風ホームページ「すまっぽん」を活用し、事前に施設の予約状況が把握できるように情報発信を行った。

また、コミュニティセンターの認知度向上及び館内施設の案内、利用内容を分かりやすくするため、リーフレットを刷新した。

大野城市コミュニティセンター



コロナウイルスワクチン接種会場対応

今年度、南コミと北コミはワクチン接種会場となったことから、法人としても市のワクチン接種対応のサポートを行った。スムーズな集団接種に向けて、職員全員で会場整理等に協力し、ワクチン接種会場運営に当たった。

場内整理



自主点検

館内の安全衛生保全を目的とした衛生委員会を立ち上げ、全てのコミュニティセンターの定期巡視を行った。危険箇所や不衛生な箇所など館内外を点検した。委員会の中で指摘を受けた箇所は速やかに改善を行った。

職員研修

今年度も、窓口対応職員のスキルアップのため、
下表のとおり研修会へ参加した。



実施月	内 容	目 的	参加人数
7月・10月	(AED)救命講習	業務スキル向上	40人
11月	ファシリテーション講座	業務スキル向上	5人
11月	NPO・地域活動についての講習	意識及びサービス向上	56人
12月	共働についての講習	意識及びサービス向上	61人
1月	人材育成講習	業務スキル向上	6人
1月	危機管理講座	業務スキル向上	4人
2月	コミュニケーション講座	業務スキル向上	6人

消防訓練等の実施

消防訓練では、基本的な避難訓練を全コミで8回実施した。また、大雨による災害時の停電に備え、「非常時発電機電源切替手順マニュアル」の整理を行い、マニュアルに沿って職員全員で自家発電機の操作手順を確認し、情報共有を行った。

成 果

- Achievement -

- ① コロナ感染症拡大の影響から、緊急事態宣言やワクチン接種会場への変更による施設の休館や利用制限等、唐突に利用者の利便性低下に直結するような事態が繰り返されたが、大きな混乱もなく対応することができた。
- ② 自主点検においては、危険箇所や不衛生な箇所などを早期に改善した結果、利用者から事故やケガの報告はなかった。
- ③ NPOや共働に関する研修を実施したことでNPOの役割を再認識し、利用者に寄り添った対応につながり、窓口でのクレーム件数が減少した。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
クレーム件数	10件	3件	2件

課題

- Task-

- ① “with コロナ時代”において、施設の稼働率を上げる新たな取り組みについて、調査していく必要がある。
- ② 施設の利用促進を図るため、利用状況の分析及び利用者ニーズの把握を行う必要がある。
- ③ 職員の経験値に差があるため、それぞれにあった研修を選ぶ必要がある。

11. 自主事業

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 総務部、施設管理部、事業部が一体となりプロジェクトチームを立ち上げ、事業を考案する。
- 各地区における地域課題の発掘を行う。
- ワークショップなどを通して、企画立案実施までの仕組みをつくる。
- 外部機関と連携し、共同企画を立案する。

事業報告

- Report -

自主事業

10 事業

今年度は総務部、施設管理部、事業部が一体となりプロジェクトチームを立ち上げ、自主事業を企画また立案し、実施した。また、コミュニティセンターの利用促進につなげるため、各コミュニティにおいて生涯学習講座を実施し、人が集い、ふれあう場を提供した。

《令和3年度自主事業績》

開催日	事業名	目的	参加者数
8/24	親子で学ぼう！「スポーツを頑張るこどもの体ケア」in 北コミ	コミセン利用促進 生涯学習講座	コロナ感染拡大防止のため中止
10/10	知って得する！終活&賢約セミナー in 中央コミ	コミセン利用促進 生涯学習講座	13 名
11/29	自宅で気軽におうちスタジオ気分！ 「おうちスタジオはじめませんか」 in 東コミ	コミセン利用促進 生涯学習講座 担い手発掘	15 名
11/14 12/11 1/9	子育て支援セミナー「子育てしながら考えるママのためのマネープラン」in 中央コミ	生涯学習講座	7 名
11/5	つながマルシェ in 大町公園	法人 PR・地域団体との関係性構築	-
12/3 12/10	出張天体観測イベント in ブランチ博多パピヨンガーデン	法人 P R	1 日約 100 名参加 計 200 名参加
12/3 3/13	わくわくゴミ拾い事業 (12/3 大野北小学校・3/13 東地区コミュニティ運営協議会主催イベントにて実施)	次世代の市民活動の担い手発掘、育成	12/3 約 110 名参加 ※3/13 はコロナ感染拡大防止のため中止
1/29	ケーブルステーション杯U-10 in 北コミ	まちづくり推進	コロナ感染拡大防止のため中止

2/21	はじめの一步！簡単薬膳セミナー in 南コミ	コミセン利用促進 生涯学習講座	25 名
3/12	P Sまつり in 北コミ	まちづくり推進 担い手発掘	コロナ感染拡大防止 のため中止

《地域課題について》

地域や地域団体と交流する中で、多くの団体が「活動の担い手不足」を課題としている。担い手不足を解決するために今回、担い手発掘を目的とした事業『わくわくゴミ拾い事業』を展開した。



成 果

- Achievement -

今年度の取り組みとして、市内で活動している地域団体や企業と連携し、事業を実施することができた。地域団体や企業と連携したことにより、関係性が構築したとともにパートナーシップによるまちづくりに寄与することにつながった。

《連携した団体及び企業一覧》

- ・ おおのじょう MONO 創り Lab
- ・ 防災ほっとキッチン
- ・ どんぼの森を育てる会
- ・ (公財) おおのじょう
緑のトラスト協会
- ・ (株)クロワッサン
- ・ ケーブルステーション福岡
- ・ (株)道 DESIGN office など



課 題

- Task -

① 周知について

今年度はさまざまな事業を実施したが、集客の面において課題が残った。より多くの人に参加していただくためには効果的な周知方法を検討すべきである。

② 自主財源について

自主事業を展開するうえで事業費が必要となる。地域課題解決に向けて事業活性化を図るためにも事業費を確保しなければならない。

令和3年度
事業計画

- Plan -

- 各部の棚卸しを行い、効率化を図る。
- 人事評価制度を活用し、個々のスキルに合わせた育成や適材適所の配置を行う。
- 年間を通した研修計画を確立し、外部の各種研修に積極的に参加し職員の個々のレベルアップを図る。
- 課題解決と求められる役割を実現するためのノウハウを習得するため、先進地の調査研究及び視察を実施する。

事業報告

- Report -

参加研修

23

中間支援組織として、職員のスキル向上を図るため、各地へ研修及び視察を行った。

また、リモートにて研修を受けることにより、さまざまな研修を受けることができた。

《令和3年度外部研修及び視察実績》

受講日	研修名	参加者数
6/18	佐賀県中間支援組織情報交換会（web）	2名
7/3	NPOについて～NPO ゲームで組織運営を疑似体験～	4名
9/10	鳥栖市民センター視察	4名
10/27	動画編集のすゝめ	4名
11/2	ファシリテーション講座	5名
11/10	FOODSTYLE in マリンメッセ福岡視察	4名
11/12	あすみん交流会『先輩 NPO に聞いてみよう』	3名
11/22	センスじゃなくルールで決める色選び	5名
11/24	ブランディングのすゝめ	2名
12/6	給料王年末調整セミナー	2名
12/11	こどもにやさしいまちづくり（web）	1名
12/17	地域貢献セミナー	6名
1/13～2/7	NPO 基盤強化講座(web) 『労務管理』（2名）『人財育成』（6名）『危機管理』（4名）『クラウドファンディング』（3名）『会計税務』（3名） 『コミュニケーション』（6名）『地域コミュニティ』（2名）	23名
2/27	柳川市助成金公開報告会・審査会視察	6名
3/17	協働のためセンターができることできないこと	4名

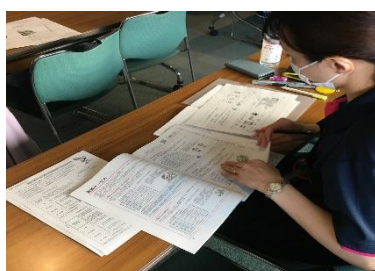
《令和3年度内部研修実績》

受講日	研修名	参加者数
4/20	事業部研修	15 名
6/15	新人職員向け研修（プラットフォーム事業）	7 名
7/16	認知症サポーター養成講座	10 名
7/20	職員研修『ボランティア講座』	20 名
7/20	事業部が知っておくべき施設管理について	11 名
10/15	介護保険制度についての出前講座	8 名
11/16	職員研修『NPO・地域活動について』	56 名
12/21	職員研修『共働について』	61 名

成 果

- Achievement -

- ① 外部研修や視察により、職員個々のスキル向上に繋がった。
- ② “NPO”や“地域活動”、“共働”について学んだことで中間支援組織としての役割を再認識し、職員の意思統一をすることができた。



課 題

- Task -

- ① 職員の経験年数やスキルに合わせた研修内容の選定が必要である。
- ② 職員の意識統一を図るために、職員採用計画及び人材育成計画を策定する必要がある。
- ③ 組織全体のボトムアップを実現するためには、各部署の棚卸を行い、業務効率化を図る。

13. 自主財源の確保

令和3年度 事業計画

- Plan -

- 地域資源の有効利用及び文化事業の活性化のため、物販販売事業を立案する。
- 会員継続へのお願いと新規会員や寄付金を得るため、法人独自のホームページでの情報公開、SNS等での情報発信を積極的に行い、多くの賛同者を募る。
- 職員による市民向けの講座を検討する。

事業報告

- Report -

自動販売機収益

コミュニティセンターの空きスペースに設置した災害用自動販売機の収益で自主財源確保を図った。

収 益

() は令和2年度

総 額 **¥ 658,654** (¥718,144)



各コミ
自動販売機
収益

南コミ
¥134,426
(¥173,609)

中央コミ
¥160,580
(¥150,798)

東コミ
¥171,671
(¥145,927)

北コミ
¥191,977
(¥247,810)

物品販売事業の展開

収 益

¥ 44,500

今年度は、(株)クロワッサンにご協力いただき、地域イベントにてパン・飲料水を販売した。

会員獲得

正会員 (個人)

40 名
(47 名)

正会員 (団体)

30 団体
(30 団体)

賛助会員 (個人)

100 名
(87 名)

賛助会員 (団体)

12 団体
(12 団体)

法人の活動PR や取り組み、活動報告をホームページやSNS ツールを活用し積極的に情報発信を行い会員の獲得に努めた。

また、定期的に会報誌を発行し活動報告を行い、支援者とのつながりの強化を図った。



課題

- Task -

- ① 現在、法人の収益は指定管理者交付金が9割以上を占めている。今後、安定した自主財源を確保するため財政基盤の強化が必要である。
- ② 新たな会員や寄付の獲得のためには更なる認知度向上が必要である。